

宗像市議会一般質問

日程	発言順	議員氏名	発言の項目
9/4 (火)	午前	1 安部 芳英	1 ナイトタイムエコノミー施策について
			2 ふるさと寄附制度が無くなる前に
			3 インフラの有効活用策について
	2 北崎 正則	1 子どもたちも教職員も元気な学校づくりへ	
		2 宗像市のスポーツ推進について	
		3 宗像の海岸線を生かすために	
	午後	3 岡本 陽子	1 災害対策の見直しを
		4 植木 隆信	1 豪雨などへの抜本的対策を急げ
			2 赤間駅北口側に明るい照明を
5 笠井 香奈枝	1 海を汚染するプラスチックごみの対策を		
			2 災害時スムーズに避難行動ができる対策を
9/5 (水)	午前	6 岩岡 良	1 官から民への在り方について
			2 西日本豪雨から得た教訓を生かすために
	7 吉田 剛	1 オーガニックをむなかたレガシーに	
		2 東郷停車場線の活性化を	
		3 マイナンバー制度の普及は	
	午後	8 伊達 正信	1 多子世帯の支援施策について
			2 宗像交通安全協会への負担金について
			3 大災害時の備えについて
	9 石松 和敏	1 学校空調設備整備事業の懸念事項について	
		2 本市における諸課題について	
10 小林 栄二	1 世界遺産から始まる新たな挑戦へ		
		2 漁業施策の現状と将来展望について	
9/6 (木)	午前	11 神谷 建一	1 大島の今後の整備計画は
			2 クラシックカーによるラリーイベントの開催を
	12 井浦 潤也	1 豪雨災害への今後の対策について	
		2 更生保護サポートセンター設置について	
		3 まちづくりを担う職員の人材育成と確保を	
	午後	13 森田 卓也	1 大雨に対する災害対応について
		14 上野 崇之	1 オリンピック・パラリンピックとスポーツのちからをどう生かすか
2 「広域連携」型観光事業の検討は			
15 新留 久味子	1 子どもの命と健康を守るため空調設置を急げ		
	2 実効性のある開発行為に関する条例へ		
	3 交通弱者に対する整備の検討を		
9/7 (金)	午前	16 末吉 孝	1 民間の災害復旧資金の貸付制度を
			2 女性が活躍しやすい職場環境に
	17 井上 正文	1 災害対策を共助の心で	
		2 地域で育てる学童保育	
		3 住み続けたい、住んでみたい離島であるために	

一人あたりの質問時間は答弁を含めて最大55分です。【質問者数：17人、質問項目：39項目】
一般質問は通告制です。

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（8）番 安部 芳英

以下のとおり通告します。

発言順	1	受領日時	平成30年 8月 3日 8時30分
項目1	：ナイトタイムエコノミー施策について		
テロップ	：ナイトタイムエコノミーについて		
	<p>夜間、早朝の観光資源を活用し「ナイトタイムエコノミー」（日没から日の出までに行われる経済活動の総称）施策の推進を行うことで、観光客や市民が夜にお金を使う場所や機会の創出につながり、域内消費額の増加、域内経済効果が見込めると考え、以下の質問を行う。</p> <p>（1）「ナイトタイムエコノミー」の具体的な施策の可能性について</p> <p>①宿泊施設と市内事業所との夜間連携についての考えは。また、考えられる支援策は。</p> <p>②東郷駅、赤間駅、教育大前駅（バスセンターにも近接している）の駅周辺で夜のイベントを行う場合に、具体的な経済効果が期待できる場合に限って費用（駐車場代、警備代、照明設備費、広報宣伝費、テント・屋台設備費）の補助を検討することができないか。</p> <p>③宗像大社神奈備祭、赤間祇園祭、八所宮の御神幸祭・古式大名行列など夜の伝統文化行事を観光資源として活用することはできないか。</p> <p>④市民や市外からの来訪者に本市の夜を満喫していただき消費喚起につなげるためにナイトマップを作成することができないか。</p> <p>⑤公共施設を夜間利用可能にすることで、市民ニーズへの対応や一定の収入増加につなげることができないか。例えば、観光拠点である赤馬館を夜間、民間などに貸し出すことができないか。</p>		
項目2	：ふるさと寄附制度が無くなる前に		
テロップ	：ふるさと寄附制度が無くなる前に		
	<p>平成29年度は15億円を超える寄附収入があり、域内経済に大きな効果を生んできていると認識している。しかし、総務省がふるさと寄附金の返礼品の返礼率の見直しを全国の自治体に求めたため、今後、返礼率の見直しによる寄附額の減少が懸念される。また、ふるさと寄附制度は全国の自治体同士で税収を奪い合うイメージもあり、制度自体の廃止も想定される。しかしながら、数値で成果を測れるため自治体の意識改革にも良い影響を与えており、自治体間の磨き合いにもつながっていると認識している。少しでも本市への経済効果、ファンを増やしたいという思いで以下の質問を行う。</p> <p>（1）ふるさと寄附の返礼品に特産品等を導入した成果（返礼品スタート以前と比較し、寄附額、寄附件数、参加事業者数、登録特産品数、雇用、経済効果、出店者の声）と今後の課題は。</p> <p>（2）むなかた応援大使、宗像市観光大使の費用と具体的成果は。（ふるさと寄附と連携した企画実績があればその成果についても。）</p> <p>（3）寄附の返礼品について、更に継続購買につながるような、作り手の見える返礼品の開発を検討できないか。例えば、漁師、海女、農家など生産者の定期便をつくり、安定収入と本市のファン化、囲い込みにつなげることができないか。</p> <p>（4）近い将来にふるさと寄附制度が無くなることを想定すると、早い段階で販路拡大、ネット通販、特産品開発、商品宣伝、研究など次の収入増加のための仕掛けづくりをすべきであり、そのための投資に寄附金を優先して充てるべきと考えるが、市の見解は。</p>		
項目3	：インフラの有効活用策について		
テロップ	：インフラの有効活用策について		
	<p>将来人口が減少していくことによって、宗像市の下水処理量にも余力が生まれることが予測できる。そこでインフラ（下水管）の有効活用を行い、かつ市民（特に高齢者）の利便性の向上につながるように、団地再生の一環として、団地の一部において、流し台にディスポーザーを設置することができないか。</p>		

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（11）番 北崎 正則

以下のとおり通告します。

発言順	2	受領日時	平成30年 8月10日 13時 8分
項目1	子どもたちも教職員も元気な学校づくりへ		
テロップ	学校における働き方改革に向けて		
	<p>中央教育審議会の学校における働き方改革特別部会（平成29年7月11日開催）において資料として示された産業別1週間の労働時間の分布によると、様々な業種の中でも「学校の過重労働は異常」であり、週約60時間以上勤務の割合も小学校教諭57.8%、中学校教諭74.1%と突出している。このことから、教職員の働き方の改善が急務であり、その対策が求められている。</p> <p>そこで、本市ではこのような現状をどう捉え、どう対応しようとしているのか。以下のことについて伺う。</p> <p>（1）教職員の勤務時間について</p> <p>①勤務の実態をどう把握して、どう分析しているのか。</p> <p>②具体的な対応策とその進め方は。</p> <p>③平成29年第3回定例会の一般質問で提案した教師業務サポート制度について、その後どのように検討されたのか。</p>		
項目2	宗像市のスポーツ推進について		
テロップ	宗像市のスポーツ推進について		
	<p>平成24年3月に国から示されたスポーツ基本計画に基づき、本市でも平成27年4月に「宗像市スポーツ推進計画」を策定した。</p> <p>国が目指す「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」に本市が一步でも近づいているのか。検証していくために、以下のことについて伺う。</p> <p>（1）スポーツ推進計画の進捗状況について</p> <p>①推進上の課題とその対応は。</p> <p>②新しく出来た「スポーツサポートセンター」の現状は。</p> <p>③本市のスポーツ推進の中核をなす体育協会や団体からの要望や意見にどう対応しているのか。</p>		
項目3	宗像の海岸線を生かすために		
テロップ	宗像の海岸線を生かすために		
	<p>江戸時代、黒田藩主黒田長政公が防風林として整備した「さつき松原」は、筑前八松原の筆頭松原と呼ばれ、白砂清松の海岸は、夏場には海水浴場として利用されている。</p> <p>施政方針の中にも観光誘客や観光資源のブラッシュアップに取り組むとあるが、そのことをふまえ、地域住民、観光客、夏のレジャー客にとってより魅力的な海岸線となるよう、以下のことについて伺う。</p> <p>（1）さつき松原、神湊の海岸線をどう生かしていくのか。</p> <p>（2）夏場の観光客を増やすためには、海岸整備（浸食対策、砂地の確保）、海水浴場周辺環境整備が必要と思われるが今後の計画については。</p>		

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（10）番 岡本 陽子

以下のとおり通告します。

発言順	3	受領日時	平成30年 8月15日 8時30分
項目1	：災害対策の見直しを		
テロップ	：災害対策の見直しを		
<p>(1) 近年想定外の災害が続いている。宗像市における災害に関しての今後の課題を市長に問う。</p> <p>(2) 平成29年度に修正が行われた地域防災計画についてさらなる見直しはなされているか。</p> <p>①水害対策に対する見直しが必要ではないか。</p> <p>②市民へのハザードマップの活用方法の周知が必要と考える。市はどのように啓発しているか。</p> <p>(3) 今年の夏、気温35度以上、40度を超える猛暑日が続いたこと、多発した熱中症患者に対して「災害レベル」との報道がなされた。国の災害指定とはなっていないが、猛暑、熱中症対策について市の考えを問う。</p> <p>①猛暑、熱中症対策についてマニュアル作成されているか。</p> <p>②熱中症搬送件数、死亡者の有無を市として把握しているか。</p> <p>(4) 都市型水害の防止策となる雨水タンクを設置する家庭に対して、その購入費用に助成金を出すなどの支援をする自治体は増えている。本市においても支援する考えはあるか。</p> <p>(5) 災害時一般廃棄物・災害廃棄物の対応</p> <p>①本年4月24日に災害時における一般廃棄物の収集運搬に関する協定が結ばれた。その経緯とそれによって果たす市の役割は。</p> <p>②昨年の北部九州豪雨災害においては20万トン以上の流木が発生、本年の西日本豪雨においては広島・岡山だけでも240万トン、近隣の飯塚市、嘉麻市においても災害廃棄物は発生している。これらは本市の地域防災計画上に記載されている環境省HP「災害廃棄物指針」の廃棄物量を越えている。災害廃棄物の早期処理に向けて広域処理体制が必要となっている。他県、他市の災害廃棄物に対する本市の対応は。</p> <p>(6) 平成30年7月豪雨災害の被害状況を見ると、人的、家屋、道路、橋梁、河川、土砂災害の被害内容は多岐に渡る。東日本大震災以降、大規模災害発生時に災害応急対策車両の出動要請は重要であり、燃料供給体制の整備が求められている。県や石油業協同組合などが大規模災害発生時における緊急給油の考え方は示している。市として災害応急対策車両の指定・責務、優先給油所や優先給油対象、重要施設への燃料供給体制の整備についてどう考えているか問う。</p> <p>(7) 学校施設の対応について以下を問う。</p> <p>①近年7、8月の気温上昇は顕著であり、その変化に合わせて猛暑への対応をすることが求められている。平成31年度中に全市立学校普通教室のエアコン設置が行われる予定であるが、使用が可能になるまでの間に必要な猛暑、極寒への対応については。</p> <p>②市立学校施設や通学路のブロック塀等の危険箇所の数とその対応は。</p> <p>③災害時避難所対応する可能性のある小中学校体育館トイレ整備の進捗状況は。</p>			

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（18）番 植木 隆信

以下のとおり通告します。

発言順	4	受領日時	平成30年 8月22日 8時30分
項目1	: 豪雨などへの抜本的対策を急げ		
テロップ	: 豪雨などへの抜本的対策を急げ		
<p>近年、異常気象による集中豪雨の被害が各地で発生している。とりわけ、被災地からの報道によると、短時間の雨量が過去の記録を一気に更新している。</p> <p>宗像市でも7月6日の豪雨によって、赤間駅の南北口をはじめ、田久地区、須恵や稲元地区でも水害が発生している。その背景には、釣川の水位が危険な状態まで増水し、須恵・稲元地区では水位を増した山田川の水が堤防を越えるという状態があった。</p> <p>今回の集中豪雨は、海水の干潮時にあたって幸いにも大きな被害を免れたといっても良いほどである。過去の議会で何度も取り上げてきたが、集中豪雨の被害をなくすには、全国的にも検討され、具体策として取り入れられている「遊水地」方式が有効とされている。特に釣川の越水や堤防の決壊による被害を想定すれば緊急で抜本的な対策が求められる。</p> <p>(1) 釣川の氾濫などで発生すると予想される被害の範囲と規模についてどのように想定しているのか。また、その対応策はあるのか。</p> <p>(2) 谷井前市長は議会での質問に対し、遊水地は有効な対策であるという考えに同意し「県とも協議したい」との趣旨を答弁している。福岡県との協議はどのように進められてきたのか。</p> <p>(3) 遊水地の候補地はいくつか考えられるが、市はどのように把握しているのか。</p> <p>(4) 遊水地確保について県と本気の協議を求めるが、今後の市の対応は。</p> <p>(5) 山田川は下流から拡張工事などの改修が進められているが、中流から上流にかけて水草が生い茂り、川の中に柳などの樹木が生えている箇所もある。こうした状態も集中豪雨の時には危険である。今後の改修はどうなっているのか。</p>			
項目2	: 赤間駅北口側に明るい照明を		
テロップ	: 赤間駅北口側に明るい照明を		
<p>J R赤間駅は宗像市の表玄関でもある。赤間駅の北口（土穴側）全体は、赤間駅南口や東郷駅に比べても夜になると薄暗いとの声が駅利用者やタクシードライバーから寄せられている</p> <p>赤間駅北口の設計や工事段階で駅利用者をはじめ、バスやタクシー関係者の意見を聞かずに進められてきた結果、不具合がいくつも出てきて、その後一部工事の手直しも行われた。</p> <p>赤間駅に本市の表玄関としてふさわしい表情を持たせ、来訪者や市民など利用する者にとって快適な空間とするため、以下について問う。</p> <p>(1) J R赤間駅北口の街灯（照明）を南口と同じように明るい照明にできないか。</p> <p>(2) 赤間駅南北口のバス停のシェルターに夜間照明の必要があると考えるがどうか。</p>			

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

般 質 問 通 告 書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（４）番 笠井 香奈枝

以下のとおり通告します。

発言順	5	受領日時	平成30年 8月22日 13時25分
項目1	海を汚染するプラスチックごみの対策を		
テロップ	プラスチックごみ対策を		
<p>プラスチックごみによる海洋汚染が世界的に危機として受け止められ、各国政府や大企業が対策に乗り出している。現在、海洋にごみとして流出しているプラスチックは、毎年800万トンといわれ、2016年の国際会議（ダボス会議）で適切な政策を進めなければ2050年までにその量は海にすむ魚の量を上回る、と警告されている。</p> <p>海のごみの80%は、生活の中で捨てられた物であり、日本の海岸に漂着しているごみの約半分がレジ袋等のポリ袋やペットボトルである。特に、この数年、マイクロプラスチックによる海洋環境汚染が深刻な問題となり、魚貝類への影響が心配されている。</p> <p>今年3月、第2次宗像市環境基本計画が策定され、「持続可能な社会」づくりの視点が強調されている。本市は漁業が主要な産業の一つであり、世界遺産の沖ノ島も、海と深く関わっている。豊かで美しい海を守り、次の世代へ伝えるためには、プラスチックごみに対する取り組みが重要であり、積極的に行っていく必要があると考える。</p> <p>そこで、以下の質問をする。</p> <p>(1) 海を汚染するプラスチックごみ問題について</p> <p>① 本市ではどのような対策を取っているのか。</p> <p>② 近年問題になっているマイクロプラスチックについての考えと対策は。</p> <p>(2) 資源循環型社会を目指す本市のごみ対策について</p> <p>① プラスチックのリサイクル率を向上させる取り組みは。</p> <p>② プラスチックごみの発生抑制が重要であると考えますが、今後推進する具体的な取り組みは。</p> <p>③ 本市の小中学校では、海のプラスチックごみ汚染についても学習しているか。</p>			
項目2	災害時スムーズに避難行動ができる対策を		
テロップ	災害時、避難行動ができる対策を		
<p>7月に起こった西日本豪雨では、多くの自治体で深刻な被害が出ている。特に、避難できずに亡くなられた方が、200人を超えている。</p> <p>本市でもこの記録的な大雨により、一部の地域に避難指示が出された。その中で、最初に避難所として指定されたコミュニティセンターが使えず、他の公共施設に避難した地域があった。そういったことも含め、今回の災害時の対応について 行政側、住民側それぞれに見えてきた課題があると思われる。</p> <p>今後、異常気象により30年あるいは50年に1度という自然災害が起こる可能性がある中、今回の事態をきちんと検証し、市民が適切な避難行動をとれるように対策を立てる必要がある。</p> <p>そこで、以下の質問をする。</p> <p>(1) 今回の災害では携帯電話やFAXなどの情報媒体を持たない市民への防災情報はどう伝えられたのか。</p> <p>(2) 避難所開設時、周辺の道路を含め現地の状況を担当職員は確認しているのか。</p> <p>(3) 水害、土砂崩れ、地震等災害の種類により指定避難所が異なる地区があるが、地域住民は把握しているのか。</p> <p>(4) 小中学校を避難所として利用するとき、課題は何か。</p> <p>(5) 今回の災害時、岡山県真備町では、亡くなった方の8割が「避難行動要支援者名簿」に登録していた。本市では今回の災害で、「避難行動要支援者」はきちんと避難できたのか。</p>			

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（ 1 ）番 岩岡 良

以下のとおり通告します。

発言順	6	受領日時	平成30年 8月23日 11時48分
項目1	：官から民への在り方について		
テロップ	：官から民への在り方について		
<p>今後、少子高齢化が進む中で将来の行政の在り方は「大きな政府」に向かっていくと考えられるが、公的部門の大きさを持続可能な範囲にとどめるためには、現段階から「小さな政府」へ向けた改革を進めていかなければならない。そのためには、予算制度改革、社会保障制度改革、国と地方の関係を見直す改革など、抜本的な改革が必要であるが、それに加え全国的な行政改革の流れである「官から民へ」を徹底させることで、民にできることは民に任せ、官は真に官が行う必要がある業務を行っていくことが重要である。</p> <p>「官から民へ」の手法については、民営化、業務委託、指定管理者制度、PFIなどがあり、本市においても、効率的な行政運営を行う上で、業務の民間委託等を行っているが、本項目では、それらの入札契約の現状について以下質問する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 業務委託契約の形態・手続きについて(2) 業者登録受付条件について(3) 業務委託・指定管理者制度の効果について			
項目2	：西日本豪雨から得た教訓を生かすために		
テロップ	：西日本豪雨の教訓を生かすために		
<p>西日本を中心に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨、いわゆる「西日本豪雨」では、気象庁は過去最多となる11都道府県に大雨特別警報を発表した。「50年に1度」の異常気象を基準に発表される大雨特別警報であるが、福岡県においては、今年の「九州北部豪雨」に続き、2年連続で発表されたことになった。このことは、「異常」がもはや身近に起こり得る「日常」になりつつあるということを客観的に示す結果となった。本市において人的被害が報告されなかったことは、結果として幸いであったが、今後はいつでも同様の、あるいはそれを上回る異常気象が発生する恐れがあることを念頭に置けば、住民・市民に最も近い基礎自治体として、いかにしてその生命を守るべきなのか、改めて再検証する必要があると考え、以下質問する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 被害状況とその原因について(2) 避難所の開設など市の対応について			

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（6）番 吉田 剛

以下のとおり通告します。

発言順	7	受領日時	平成30年 8月24日 8時30分
項目1	オーガニックをむなかたレガシーに		
テロップ	オーガニックを宗像レガシーに		
<p>東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、事前合宿などホストタウンの取り組みが本格化しており、相手国に対しての食のもてなしが非常に重要となっている。特に持続可能性のあるオーガニックやGAP食材の活用が相手国の満足度を高める手段として注目を集めている。GAPとは、Good Agricultural Practice：農業生産工程管理のことで、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みのことである。本大会における持続可能性に配慮した農産物の調達基準では、選手村など本大会において提供される飲食物へ調達される食材の基準とその要件を満たすことを示す方法としてGAP認証が規定され、また要件を満たした上で推奨される事項のひとつとしてオーガニック農産物があげられている。</p> <p>国は本大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針において、地域性豊かな和食など日本文化の魅力を世界に発信するとしており、大きな変革が進められている。本市でもGAP認証とオーガニックを推進することで、世界基準で宗像の食の魅力を発信し、オリンピックレガシーとすべきだと考える。その実現に向け、以下質問を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) GAP認証の認識と必要性、推進した場合の効果と課題は。(2) GAP認証とオーガニックを本市の農業のブランディングに活用する考えは。(3) 事前キャンプを受け入れた経験から見えてくる現状と課題、食に関する対応は。(4) 平成28年策定のむなかたレガシープランに食に関する明確な記載はないが、見直し等の考えは。			
項目2	東郷停車場線の活性化を		
テロップ	東郷停車場線の活性化を		
<p>「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産が世界遺産登録され1周年となった。</p> <p>東郷駅宗像大社口は自由通路の改修と駅前広場の整備、旧3号線に接続する東郷駅前線が完成し、世界遺産の玄関口にふさわしい外観となった。</p> <p>駅前通りである東郷停車場線はJR東郷東口交差点前のレガネットから東郷駅までのなだらかな坂道である。レガネット周辺では飲食店や八百屋、理髪店、病院など賑わいもあり、通り沿いには喫茶店などの新規店舗の出店もあるものの、増加した観光客の恩恵は感じられず、シャッターの閉まった店舗も目立つ。平成27年第三回定例会において、世界遺産を意識して設計した東郷駅と一体化したデザイン、コンセプトで東郷停車場線の町並みと道路の整備を行い、民間参入の流れをつくってはどうか、と提案したが、世界遺産登録1周年となった今、改めて東郷駅の位置づけと東郷停車場線の活性化を考えたい。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 第2次宗像都市計画マスタープランにおける東郷駅の位置づけと東郷駅宗像大社口周辺から県道東郷停車場線沿線の位置づけは。(2) 県道東郷停車場線沿線の町並み形成や景観づくり、地域と連携したまちづくりの考えは。(3) 世界遺産登録後に東郷駅を利用する乗降客数の推移とその導線については。			
項目3	マイナンバー制度の普及は		
テロップ	マイナンバー制度の普及は		
<p>マイナンバー制度は「行政を効率化し、国民の利便性を高め、公平・公正な社会を実現する社会基盤」として平成27年に法施行され、平成28年よりカード交付が始まった。しかしながら、全国的に普及が進んでおらず、マイナンバーの通知カードをマイナンバーカードと誤解する市民も多く、認知度も高くない。そこでマイナンバーカードに関して以下質問を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 通知カードとマイナンバーカードの違いは。また、マイナンバーカードのメリットは。(2) マイナンバーカードの発行状況は。(3) マイナンバー制度を利用したサービスは。			

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（12）番 伊達 正信

以下のとおり通告します。

発言順	8	受領日時	平成30年 8月24日 16時37分
項目1	多子世帯の支援施策について		
テロップ	多子世帯の支援施策について		
	<p>前回6月議会での代表質問の中で、執行部から多子世帯の負担軽減については、今年度庁内でワーキング会議を設けるなどして、今後検討していくという内容の発言があった。国も多子世帯の支援策として3人以上の子どもを育てる環境の整備を進めている。市民の声として、多子世帯では子どもを育てるのに多大な費用がかかるという話をよく聞く。少子化の中、このような状況に鑑み庁内ワーキング会議の中で市民の声も含めた以下の提案について検討できないか伺う。</p> <ol style="list-style-type: none">（1）多子世帯における児童・生徒の給食費の免除を。（2）第3子以降の出産に対し祝金を支給。また、2年目から継続して商品券等の交付を。（3）保育所等において第1子が就学しても第2子は保育料半額、第3子は無料とできないか。（4）多子家庭応援自治体の宣言を。（5）多子世帯を対象とした市内公共施設使用料の減免制度創設を。		
項目2	宗像交通安全協会への負担金について		
テロップ	交通安全協会の負担金について		
	<p>本市は、宗像交通安全協会に対し、平成30年度の負担金として106万8千円を前期と後期に分け支払うとしているが、その目的と金額の根拠を伺う。</p>		
項目3	大災害時の備えについて		
テロップ	大災害時の備えについて		
	<p>近年日本において、地震・水害等の被害が毎年のように発生している。避難所生活を余儀なくされている方々の心労は、察するに余りあるものがある。本市では「宗像市地域防災計画」に基づき、市、県、関係機関、市民等が一連の防災活動を適切に実施することにより、市民の生命や財産を災害から守り、被害の軽減を図ることとしている。本計画に沿って以下の質問及び提案を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">（1）災害時における民間団体等との連携協定について<ol style="list-style-type: none">①災害時における一般廃棄物の収集運搬については、市内ごみ収集業者との協定を結んでいるが、大災害時においてはごみの仮置き場の不足が指摘されている。事前準備として民間の空き地の活用等が考えられないか。また、搬送においては二重の備えとしてトラック所有者との事前協定を考えてはどうか。②大災害時における罹災証明書の発行については、被災した各地で対応の遅れ等が指摘されている。大災害等の発生時には市職員の多忙が想定されるが、連携協定を結んでいる建築組合等への委任は考えられないか。③食料等、緊急時の物資輸送については小回りの利く軽自動車の活用が適していると考える。市内宅配業者は地理にも明るく宅配を通して市民とのつながりもある。拠点から拠点への搬送、また高齢者・障がい者等の外出困難者への対応策として宅配業者との事前協定を検討できないか。④被害や救助要請者の状況確認などに、民間会社との連携によりドローンを活用してはどうか。（2）災害時においては、ペットの衛生管理が重要と考えるが救護活動も含め対策を伺う。（3）災害時において、被災者の心のケアが重要であるが、大災害時において市内の温泉施設の無料開放を検討できないか。（4）本市は大災害時において物資輸送の拠点をどこに置くのか。		

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（17）番 石松 和敏

以下のとおり通告します。

発言順	9	受領日時	平成30年 8月27日	8時30分
項目1	：学校空調設備整備事業の懸念事項について			
テロップ	：学校空調設備整備事業の懸念事項			
(1)	エアコン稼働の時期、維持管理期間の基本的な考え方について 今年の猛暑を考えると、児童生徒及び保護者の切実な願いは一日でも早くエアコンを稼働して欲しいということである。実施方針（案）及び要求水準書（案）によると、設計及び施工期間は2019年4月から同年9月末と記載されており、維持管理期間は所有権移転後からと記載されている。これは施工が完了した学校ごとにその都度完了検査及び完成確認を実施し、所有権を移転し順次エアコンを稼働させることができると理解して良いか。このことは、実施方針等に関する意見・質問書でも同様な内容が指摘されており、その回答には、「ご理解のような取扱いも想定されますが、合理的かつ効果的に扱うものとします」と記載されているが、この回答は不明瞭であり、どのように理解したらよいのか、執行部の見解を伺う。			
(2)	空調設備の室外機の設置場所について 実施方針（案）によると、「原則として本事業において室外機を校舎の屋上及び壁面には設置しないもの」と記載されているが、豪雨時の冠水の可能性や児童・生徒の不適切な扱いによる故障等を考えると、屋上に設置した方が安全・安心だと考えるが、執行部の見解を伺う。			
(3)	事業者を選定しない場合について 実施方針（案）によると、「入札参加グループの提案によっても公的財政負担の縮減の達成が見込めないなどの理由により、落札者を選定せず、特定事業の選定を取り消す場合があります」と記載されている。このことは事業者の提案が、PFI方式で実施する場合に事業期間中の市の財政負担額の約9%程度軽減を達成することが見込めないときには落札者を選定しないということか、またその場合にはその後の対応をどうするのか、執行部の見解を伺う。			
項目2	：本市における諸課題について			
テロップ	：本市における諸課題について			
(1)	城山中学校の建て替えも含めた学校施設のアセットマネジメントについて			
①	城山中学校の建て替え問題についての現在までの進捗状況を伺う。			
②	学校施設の総量圧縮について 今年3月議会の一般質問では、学校教育関係の施設について総量圧縮は避けて通れない分野と認識しているとの執行部の答弁があった。また、小中学校の統廃合及び通学区域の見直しを基本として学校規模の適正化を進めていくとし、今後、個別計画等を検討して具体策を進めていくことが必要と答弁されている。 さらに、今年6月議会の代表質問では、今後の学校規模の適正化実現に向けては、基本方針と照らしながら優先的に検討を要すると思われる個別の校区や学校について、児童・生徒の数の推移や学校の配置状況、学校施設の状態や利用状況等を整理し、今後の具体的な取り組みを検討していく必要があると答弁があった。誰が、いつまでに具体的な取り組み案を示すのか、執行部の見解を伺う。			
(2)	2022年以降の成人式の対象年齢について 改正民法により成人年齢が18歳に引き下げられる2022年以降の成人式について、神奈川県逗子市では今まで通りに行うとの方針が決定。本市の対応について見解を伺う。			
(3)	死亡者の手続きにワンストップ窓口の設置 遺族らはこれまで、世帯主変更届や国民健康保険証の返還、上下水道料金名義人の変更届など複数の担当部署に出向く必要があったが、兵庫県三田市では、市民の死亡に伴う事務手続きを一括して行う専用窓口「おくやみコーナー」を開設。ワンストップの窓口を設置することにより、各担当窓口の職員がその場に来て受け付けるなど、手続きにかかる時間と労力を減らすことが可能となり、市民サービスの向上につながると考えるが、執行部の見解を伺う。			

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（ 5 ） 番 小林 栄二

以下のとおり通告します。

発言順	10	受領日時	平成30年 8月27日 8時30分
項目1	：世界遺産から始まる新たな挑戦へ		
テロップ	：世界遺産から始まる新たな挑戦へ		
<p>世界遺産登録決定からはや1年と数か月が経過した。登録3年後には世界遺産効果が薄れていくということをよく耳にするが、「鉄は熱いうちに打て」と言うように、早急に観光客誘致、観光資源のブラッシュアップを含む観光施策全般について対応を行う必要があると考えるが、市の見解を伺う。</p> <p>(1) 宗像大社を取り囲む歴史遺産の活用方法について。</p> <p>(2) 海女発祥の地と言われる鐘崎だが、鐘の岬織幡通り開通後の鐘崎漁港の産業と観光の活性化に向けての計画は。</p> <p>(3) 湯川林道の今後の活用については。</p> <p>(4) 沖ノ島遙拝所を含め、大島、本土側で沖ノ島に見えるスポットを公園として整備する予定は。</p> <p>(5) 釣川を観光資源として活用する計画は。</p>			
項目2	：漁業施策の現状と将来展望について		
テロップ	：漁業施策の現状と将来展望		
<p>漁業を取り巻く全国的な問題として、漁獲量の減少、漁業者の高齢化、漁業施設の老朽化、災害対応などが考えられる。平成28年度からの宗像市産業振興計画に基づき、水産業分野ではさまざまな取り組みが実施されているようだが、計画期間の中間時期に至った今、目標に対して現状を確認する必要がある。その結果、見直しを含め、次の5年10年を考えた水産業について検討していくことも必要になると思われる。そこで今後の将来展望について、市の見解を伺う。</p> <p>(1) 漁獲量の減少・魚価低迷への対策は。</p> <p>(2) 漁業者の高齢化・担い手不足への対策は。</p> <p>(3) 老朽化していく防波堤などの漁港施設の維持管理と大規模災害への対応は。</p>			

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（13）番 神谷 建一

以下のとおり通告します。

発言順	1 1	受領日時	平成30年 8月27日 8時30分
項目1	：大島の今後の整備計画は		
テロップ	：大島の今後の整備計画は		
	<p>世界遺産登録から一年が経過し、大島に渡る観光客も増えると同時に島内では新規飲食店が数件オープンし、若い世代の方々が集う場となり賑わいを見せている。</p> <p>今後も観光客を誘致し、賑わいを継続するために市としてはどのような取り組みが必要なのか、以下の項目について伺う。</p> <p>(1) 世界遺産登録から一年が経過した大島地区での観光客数の推移と新規出店者数、観光客の受け入れ態勢や来島者の声など、現状をどのように把握しているのか。また、今後の観光客増につなげる計画はどのように考えているのか伺う。</p> <p>(2) 大島は九州オルレの認定を受け、御嶽山までの登山客も多いと聞けるが、現在、7月の大雨によりオルレコースが全面通行止めとなっている。早急な復旧が必要と考えるが、今後の復旧計画は。</p> <p>(3) 大島花火大会は、夏の風物詩であり大島の行事の一つとして欠かせないものとなっている。本年度から市の補助制度が無くなり、今後の継続は難しいとの声も聞く。市の大島花火大会助成に関する考えを伺う。</p> <p>(4) 「大島に住んでみたい」と、今年2月に若い夫婦が大島に移住し、農産物の加工販売等に携わっていると聞けるが、大島に若い世代の方が移住することは今後の大島の地域活性化に必ずつながると考える。大島への移住者に対し家賃補助や雇用の場の支援策など考えられないか伺う。</p> <p>(5) 旧大島村村営牧場跡地は現在、民間企業に3年間無償貸与することで牧場経営を継続し、大島の観光名所のひとつとして重要な位置づけがされているが、3年目を迎え今後の牧場経営は難しいとの話も聞く、市としては次年度以降の跡地利用をどのように考えているのか伺う。</p>		
項目2	：クラシックカーによるラリーイベントの開催を		
テロップ	：イベント誘致について		
	<p>「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界遺産に登録され、日本国内のみならず、世界中からも注目を浴びている宗像市。そんな歴史的な地で、世界自動車史に名を残した名車を集め、クラシックカーによるラリーイベントを開催できないか、以下の項目について伺う。</p> <p>(1) 日本各地で開催されているラリーイベント。参加者には開催地である宗像の自然や、歴史的なスポットをクラシックカーで巡りながら地元の人との交流を楽しんでもらい、さらにその光景を見に多くの観客が本市を訪れることで地域活性化につながると考えるが、誘致活動はできないか、市の考えを伺う。</p> <p>(2) スポーツ大会や音楽イベントなど、宿泊を伴うイベントの誘致は観光客増につながり経済効果も高まると考える。本市でのイベント誘致に関して市の考えを伺う。</p>		

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

一般質問通告書

宗像市議会議員 様

宗像市議会議員（3）番 井浦 潤也

以下のとおり通告します。

発言順	1 2	受領日時	平成30年 8月27日 8時30分
項目1	：豪雨災害への今後の対策について		
テロップ	：豪雨災害への今後の対策について		
	<p>7月6日の豪雨による災害は、九州から中部地方にかけて広範囲にわたる記録的な大雨で、数十年に一度の災害を意味する「大雨特別警報」が各県で出されるなど、かつてない事態となっている。今後の対策を考える上では、記録的豪雨が常に起こりうるという危機意識を持っておかねばならないと考える。</p> <p>本市でもこの豪雨により各地域において水害が発生し、これまで行ってきた水害対策では対応が行き届かない状態であると考え。そこで、これからの対策を考える上で以下の項目について伺う。</p> <p>(1) これまで行ってきた水害対策と、今後の計画についてどのように考えているのか。</p> <p>(2) 水害対策を根本的に考える上で、「遊水地」の有効性と効果はどのように考えているのか。</p>		
項目2	：更生保護サポートセンター設置について		
テロップ	：更生保護サポートセンター支援を		
	<p>法務大臣が委嘱する民間篤志家である保護司は、罪を犯した者や非行のある少年の地域における立ち直り支援や再犯防止の活動を行うなど、保護観察の実施だけではなく、地域社会の安全・安心に貢献する理念のもと、地域住民からの相談対応、学校との連携、地域の犯罪や非行の発生を予防するための活動など幅広く活動している。</p> <p>法務省においても保護司会をはじめとする更生保護関係団体と地域における関係機関・団体及び地域住民との連携を強化し、保護司の活動支援と更生保護活動の一層の充実強化を図ることを目的に、平成20年度から全国の保護区に保護司活動の拠点機能として更生保護サポートセンター設置を推進している。宗像保護区（宗像市・福津市）においても平成29年度総会において、サポートセンターの平成30年度開設を決定しており、計画を進めているところである。そこで、以下の項目について伺う。</p> <p>(1) 保護司活動には地域住民の理解と協力が不可欠であるが、広報紙への掲載など、周知への支援はあるのか。</p> <p>(2) 更生保護サポートセンター設置において本市の支援はあるのか。</p>		
項目3	：まちづくりを担う職員の人材育成と確保を		
テロップ	：職員の人材育成と確保を		
	<p>本市は、最大の行財政改革と言われる市町村合併を二度にわたり取り組み、特に職員数については、10年間で約80人の削減を行ってきた。このおかげで現在も全国で職員数の少なさはトップレベルを維持している。</p> <p>しかし、ここ数年、毎年のように発生している災害に対応するため職員の役割はますます増えている。また、都市間競争で「住みたいまち、住み続けたいまち」に選ばれるためには、まちづくりを行う市民のパートナーとしての職員の役割が重要である。</p> <p>ここ数年の民間企業の景気の上向きや労働者人口の減少に伴う人手不足もあり、公務員の職員採用状況も厳しいと聞いている。優秀な人材を確保するためには、宗像市職員の賃金を含めた労働条件などの待遇面の改善が必要と思われる。そこで以下の項目について伺う。</p> <p>(1) 今後の職員数についてどのように考えているか。</p> <p>(2) 優秀な職員を確保するための取り組みは。</p>		

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（7）番 森田 卓也

以下のとおり通告します。

発言順	13	受領日時	平成30年 8月27日 9時18分
項目1	大雨に対する災害対応について		
テロップ	大雨に対する災害対応について		
<p>近年、平成30年7月豪雨や九州北部豪雨災害など、今までとは違う大雨により、大きな災害が発生している。幸い本市では大きな災害は発生していないが、7月豪雨時の本市の対応、また、災害発生時の対応全般について伺う。</p> <p>(1) 市災害対策本部の対応状況について 今回の市災害対策本部の対応状況について8月15日号の広報誌にも記載されていたが、7月豪雨当日の、対策本部の対応の流れ及び職員の体制などについて伺う。</p> <p>(2) 今回の大雨での市の災害対応において、新たに出てきた課題について ①今回の大雨対応での反省点を踏まえ、今後、どのような対応や取り組みを実施していくのか。 ②避難所の開設について、河東地区では、「(コミュニティ・センター) → (河東小学校) → (市民体育館)」へと移動となったが、その理由は。</p> <p>(3) これまで本市が行ってきた防災に関する施策について これまで本市において取り組んできた防災施策や訓練など、準備してきたことで今回の大雨災害に活かされたことは何か。</p> <p>(4) ため池の被害について ①今回の大雨で山田地区のため池は決壊の恐れがあったが、その原因と、今後の改修の予定は。 ②市内には多くのため池が存在するが、今後、他のため池の状況調査等を行っていく予定は。</p>			

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（2）番 上野 崇之

以下のとおり通告します。

発言順	1 4	受領日時	平成30年 8月27日 11時29分
項目1	： オリンピック・パラリンピックとスポーツのちからをどう生かすか		
テロップ	： スポーツのちからをどう生かすか		
<p>宗像市では、2015年に「宗像市スポーツ推進計画」を発行し、スポーツのちからを市民の健康づくりやコミュニティ運動の活発化、スポーツ観光による地域経済活性化など、多面的に生かす取り組みを進めている。また、トップアスリートと宗像市民の交流にも取り組み、本年8月17日には、鈴木俊一東京オリンピック・パラリンピック競技大会担当大臣が本市を訪れ、ブルガリア柔道選手団と市民の文化交流の様子を視察している。</p> <p>本市の各種施設や資源を生かした取り組みに加え、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまで本市や福岡県下で行われるイベントやキャンペーンを、一過性の消費型事業としてではなく、持続的な文化交流や市民協働のまちづくり、また宗像市の魅力向上などにつないでいくことが重要である。以上の状況と問題関心から、以下質問する。</p> <p>(1) オリンピックのキャンプ地（ホストタウン）や、宗像サニックスブルースの本拠地として</p> <p>①市民の意識醸成をどのように行っていくか。特に、大事にしたい視点と取り組みは何か。</p> <p>②トップアスリートたちの指導を受けたり、交流したりする機会を誰がどう企画・実施するか。</p> <p>(2) パラリンピックへの関心喚起や共生社会の推進に向けて、障がい者スポーツの機会をどう創出するか。特に、障がいの有無にかかわらず、多様な人々の参加と交流をどう促すか。</p> <p>(3) 「宗像市スポーツ推進計画」に記載のある「小学生の体力向上支援」、「中学校体育授業（武道）及び中学校運動部活動の支援」について</p> <p>①学校の部活動に派遣する人材は十分確保できているか。また、どのように派遣しているか。</p> <p>②指導を受ける側のニーズや特性に応じた、指導者派遣・育成の取り組みをどう工夫しているか。</p> <p>(4) スポーツ観光の推進について</p> <p>①スポーツコミッションの進捗状況はどうなっているか。</p> <p>②スポーツ観光のなかで本市の魅力をどのように発信・表現し、市内外に認知させていくか。</p>			
項目2	： 「広域連携」型観光事業の検討は		
テロップ	： 「広域連携」型観光事業の検討は		
<p>本市の観光事業の課題の一つは、自家用車での日帰り来訪者が多いなか、長時間滞在者や宿泊者をどう増やし、地域経済活性化につなぐかにある。こうした問題関心は、本年6月の議会定例会で示された「平成30年度施政方針」にある、「観光産業の分野においては、世界遺産登録による来訪者の増加を背景に、情報発信ツールの充実をはじめ、国内外からのお客様に少しでも長く滞在して頂けるように、また、1カ所でも多くのスポットを訪問していただけるように、観光誘客や観光資源のブラッシュアップ、市域を越えた広域的な回遊性の向上に取り組んでまいります」との記載からもうかがい知ることができる。</p> <p>とりわけ「市域を越えた広域的な回遊性の向上」という表現からは、「広域連携」型観光事業が示唆されていると受け取れるが、具体的にはどのような構想があるのか。市の見解を伺う。</p>			

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

一般質問通告書

宗像市議会議員 様

宗像市議会議員（16）番 新留 久味子

以下のとおり通告します。

発言順	15	受領日時	平成30年 8月27日 11時40分
項目1	：子どもの命と健康を守るため空調設置を急げ		
テロップ	：子どもの命と健康を守る整備を		
<p>今年の夏は全国的な酷暑となり、学校でも熱中症で体調を崩す子どもが後を絶たない。また命を落とす事故も起き「命の危険のある酷暑」との報道が連日される状況。さらに残暑も厳しく9月に入っても猛暑日が続くとの予報である。</p> <p>本市は、学校施設での空調設置を随時すすめ、先の6月議会で、2020年度の1学期から市立学校の普通教室の空調設備を稼働できるように事業をすすめることを明らかにした。</p> <p>しかし、今年の酷暑の状況や残暑の厳しさを鑑み、国も学校施設の空調設置に対する補助制度を検討している。</p> <p>(1) このような補助制度の活用も視野にいれ、2020年度稼働を前倒しし、2019年度1学期から稼働できるように整備計画を再検討するべきと考えるがどうか。</p> <p>(2) 学童保育施設で空調未整備の施設にも同じように2019年度1学期から稼働できるように検討できないか。</p>			
項目2	：実効性のある開発行為に関する条例へ		
テロップ	：実効性ある開発行為の条例へ		
<p>全国的にも、住民の合意形成がなく山林が伐採されてため池や里道の保全を脅かしたり、災害への対策が取られず被害を大きくしたりなど、地元住民の自然や住環境に影響を与える開発行為が行われている。</p> <p>本市においても、私の居住地近辺でこの間、名残地区での資材置き場、富地原地区でのモトクロス場、さらに同じ富地原地区では現在、自治会や農事組合の合意形成が取れないまま開発行為がすすめられ、住民と協議中といった状況である。</p> <p>本市は、携帯電話の基地局や中高層マンションなどの建設などで周辺住民と事業主との間でトラブルが起きたことなどを受け、市が仲介し話し合いなどによる解決の道を探るといった紛争防止のための実効性ある「建築紛争の予防及び調整に関する条例」を制定した。</p> <p>しかし、市街化調整区域等の開発行為に関する条例については、市に計画書を届けなければならないという届出制が明記されているにもかかわらず、届出が提出されず開発行為が行われ、住民との間にトラブルが起きている。そのことで、自然環境は大きく変化し周辺住民に様々な影響を与えている。そこで実効性ある市街化調整区域等の開発行為に関する条例へと改正が必要であると考え、以下を問う。</p> <p>(1) 無届の開発行為の場合、開発行為が既に進んだ段階で周辺住民に情報が入るといった状況が続いている。そこで住民参加を促すため、周辺住民に対する説明の条項を検討できないか。</p> <p>(2) 条例には、計画に対する助言や指導又は勧告、命令などの行政処分条項も定められている。しかし、行政処分を執行するには事業主の財産権など十分な検討が必要である。そこで、処分の公正性を明らかにするためのガイドライン（運用規則）の作成を検討できないか。</p>			
項目3	：交通弱者に対する整備の検討を		
テロップ	：バス停シェルター整備の検討を		
<p>自由ヶ丘地区の森林都市金田眼科前バス停は、台風の被害でバス停のシェルターが撤去されたままになっている。このバス停の利用者や近隣住民の多くから「再度、シェルターをつけてほしい。」「高齢者の方々が本当に大変そう。シェルターは必要なのでは。」との切実な要望を受けている。</p> <p>(1) 再度、シェルター設置を検討できないか。</p> <p>(2) 市内のバス停のシェルターを再点検し、住民の意向を踏まえ必要性の高いバス停には、随時計画的にシェルター設置を検討できないか。</p>			

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（19）番 末吉 孝

以下のとおり通告します。

発言順	16	受領日時	平成30年 8月27日 12時20分
項目1	：民間の災害復旧資金の貸付制度を		
テロップ	：民間の災害復旧資金の貸付制度を		
	(1) 宗像市における過去3年の災害現況（件数）において、公共施設関係、農林業関係、民間関係の区分ではどのようになっているのか。		
	(2) 農林業関係の災害復旧については、どのような制度があるのか。		
	(3) 民間関係の災害について、「激甚災害の指定」を除いて、どのような制度があるのか。		
	(4) 今後の自然災害の規模や質は、これまでになく激烈になることが予想される。その被害も公共関係や農林業関係だけでなく、民間の土地や建物にも当然及ぶと考えられる。そこで、民間の災害復旧に対して何らかの助成制度や復旧資金の貸付制度など、市民が安心して災害復旧に取り組める支援の方策を考えるべきではないか。		
項目2	：女性が活躍しやすい職場環境に		
テロップ	：女性が活躍しやすい職場環境に		
	(1) 女性活躍推進アクションプランの目的とその概要は。そして市の女性職員に関する計画はどのようなものがあるか。		
	(2) 市職員の女性構成比はどれだけか。特に最近10年間の新規採用職員の男女比率はどのようになっているか。		
	(3) 職員の出産・育児・介護をサポートする取り組みとして、市はどのようなことを行っているのか。		
	(4) 職員の出産・育児・介護を支援するため、今年2月から実施している「メンター制度」とはどのようなもので、その実施状況はどうか。		
	(5) 職員が産休・育休明けで職場復帰しようとする時に、精神的な負担が大きいと聞く。その対策としてきめ細やかな相談体制や復帰する職場の体制を整えることは極めて重要と思う。それに加えて、職場復帰のためのトレーニング期間やスキルアップのための制度を新たに市独自で検討してみてはどうか。職員が自信を持ち、能力をさらに向上することは、市の行政運営にとって大いにプラスになっていくと思うがどうか。		

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。

一般質問通告書

宗像市議会議長 様

宗像市議会議員（9）番 井上 正文

以下のとおり通告します。

発言順	17	受領日時	平成30年 8月27日 13時10分
項目1 ：災害対策を共助の心で			
テロップ ：災害対策を共助の心で			
<p>近年、気候変動による異常気象や自然災害が全国各地で多発している。今年の7月豪雨では、本市においても、地域住民が市民体育館やコミュニティ・センター等に避難した。そこで、今回の豪雨への対応を通して、本市の災害対策と地域住民の役割について問いたい。</p> <p>(1) 7月豪雨で避難した地域住民の人数や内訳などの状況は。</p> <p>(2) 7月豪雨の際、本市の自主防災組織は機能したのか。また、本市の自主防災組織のリーダー育成や活動計画の策定を進めるための施策は。</p> <p>(3) 本市在住の市民以外で、土砂災害警戒区域や危険区域内に居住もしくは勤務するなど、災害時に避難すべき対象者の実態を把握できているのか。</p> <p>(4) 福岡教育大学、日本赤十字九州国際看護大学との災害時における連携体制や役割はどうなっているのか。</p>			
項目2 ：地域で育てる学童保育			
テロップ ：地域で育てる学童保育			
<p>(1) 本年から赤間地区コミュニティ運営協議会が運営を開始した赤間小学校学童保育の状況は。</p> <p>(2) 酷暑が続いた今夏、安全かつ快適な子どもたちの生活の場である学童保育施設のエアコンやトイレなどの整備状況は。</p> <p>(3) 土砂災害警戒区域や危険箇所隣接する学童保育所の災害対策はどうなっているのか。</p> <p>(4) 学童保育は、学校と家庭をつなぐ第二の家庭とも言われる。本市が理想とするこれからの学童保育環境の形とは。</p>			
項目3 ：住み続けたい、住んでみたい離島であるために			
テロップ ：住み続けたい島であるために			
<p>インターネット環境の整備が幅広く多くの島民から求められている。また、島内への移住を推進するためにも、ネット環境は必要不可欠であると考え、以下について伺う。</p> <p>(1) 島内にネット環境を整備する場合の費用の試算額はいくらなのか。</p> <p>(2) 子育てや、働く機会の創出など、島内の生活に必要なとされるネット環境の整備について、民間企業への働きかけ、県や国への要望など、今後の見通しはどうか。</p>			

※通告書の文字は明朝体11pt、概ね1枚を目安としてください。